

「鎌倉殿」と千葉常胤

五、常胤が献上したごちそう

毎週日曜日、NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が放送中です。俳優の岡本信人さんが演じる千葉常胤は、千葉のまちの礎を築いた千葉一族の中興の祖といわれており、源頼朝を助け鎌倉幕府の成立に大きく貢献し、多くの功績を残した人物です。

鎌倉時代、幕府ではさまざまな儀式が行われていましたが、常胤に関わるものでは、「^{おうばん}烷飯」がよく知られています。烷飯とは、慶事の際、御家人が将軍に祝膳を献上した後、そこに集う御家人達にもふるまうことで、将軍と御家人との主従関係と御家人間の同輩関係を再確認する、とても重要な儀式でした。なお、烷飯は現在の「大盤振る舞い」の語源にもなっています。

鎌倉時代の歴史書「^{あすまかがみ}吾妻鏡」には、常胤が、元日の烷飯を幾度も担当していたことが記されています。元日の烷飯を任せることは、特に名誉なこととされ、幕府内で筆頭の御家人が行うものであったとも考えられています。

では常胤は、どのようなごちそうを振る舞っていたのでしょうか。

頼朝の鎌倉入府後初めて迎えた、1185年（治承5年）の元日烷飯を任された常胤は、1メートルの大鯉をはじめ、数えきれないほどの美酒や肴など贅を尽くした料理をふるましたとされています。

残念ながら祝膳の詳しいメニューは記されていませんが、当時の記録から、房総ではアワビ、ハマグリ、カツオ、サケや、シカ、キジ、果物などの山海の幸に恵まれていた様子がうかがえます。

豊かな食材に彩られた「常胤のおもてなし料理」が、鎌倉殿源頼朝の御膳を賑わした様子を想像してみるのも、楽しいかもしれません。

千葉氏ポータルサイト 



中世の食事の様子（「酒飯論絵巻」 国立国会図書館デジタルコレクションより）

大河ドラマ
鎌倉殿の13人
THE 13 LORDS OF THE SHOGUN

毎週日曜日 20:00から (NHK総合テレビ)
18:00から (NHK BSプレミアム・BS4K)